

「梅花流詠讚歌」は、曹洞宗の詠讚歌です。
詠讚歌は、一般のご詠歌と呼ばれていますが、ご詠歌とは、仏教の教えを五・七・五・七・七の和歌と成して、旋律に乗せて唱えるものです。
また、七五調あるいは五七調の詞に曲をつけたものを「和讚」と呼び、広い意味で両者を合わせて「ご詠歌」と称しています。

曹洞宗の詠讚歌は、「梅」の「花」と書いて「梅花流」といいます。これは、大本山永平寺をお開きになられた道元禪師と、大本山總持寺をお開きになられた瑩山禪師の両祖さまが、ともに教えの中に梅の花を用いていることに由来します。

梅花流詠讚歌の歌詞には、お釈迦さまをはじめ、両祖さまや各祖師方の生涯やその教え、あるいは観音さまやお地蔵さまを讃えたものや、さらには亡き方への供養の心を表現したものなど、私たちが仏教徒として学ぶべき教えが詠み込まれています。

そのような歌詞の内容を、日本の風土と暮らしの中で生まれた、優しく穏やかな調べに乗せ、鈴と鉦という法具を用いて、“チン”・“リン”・“チン”・“リン”と、鐘の音を鳴らしながらお唱えいたします。

そして、梅花流詠讚歌を皆でお唱えするという事は、曹洞宗の教えの中心である坐禅の修行をもととした仏の教えを広く正しく学び、その教えを私たちの日々の生活に行じていくという、信仰活動の一つなのです。

そのため、梅花流詠讚歌には大切な三つのお誓いがあります。

その三つとは、

- ・ 私達は梅花流詠讚歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・ 私達は梅花流詠讚歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・ 私達は梅花流詠讚歌を通して、明るい世の中をつくりまします。

というお誓いです。

詠讚歌を学ぶことにより、仏の教えの中で毎日の生活が充実し、一緒に学ぶ仲間が互いに心の支えとなり、誰もが幸せでありますようにと誓いあうお互いとなり、さらにその心がお唱えという行いになるのです。

梅花流詠讚歌は、お唱えする人の心にも、また、それを聴く人の心にも、きっとうるおいを与えてくれることでしょう。

皆様も一緒に梅花流詠讚歌をお唱えしてみませんか。